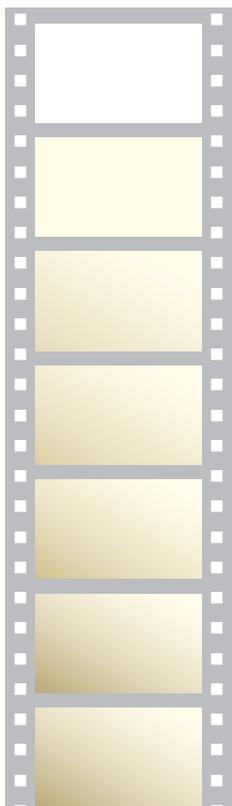


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第六回 「もう一度観たい！全エピソード120話」

わが家にテレビが来て以来、ぼくは外国テレビ映画を中心に、ジャンルを問わず番組を観ました。その大半はアメリカ制作の作品で、いま考えてみると、西部劇やスパイ物、探偵物、動物が主人公のもの、そしてコメディーなど、さまざまでした。

そのなかで「もう一度、全エピソードを観たい作品は？」と聞かれれば、無実の罪の男が4年間、全米各地を転々と逃げ回るドラマ「逃亡者」（全120話）と答えるでしょう。

ヴィクトル・ユーゴー原作、「レ・ミゼラブル」のジャン・バルジャンをベースにしたテレビ映画「逃亡者」は、第一シリーズ（全30話）から第四シリーズまで、全120話あります。話がちよつと横道にそれますが、アメリカ、テレビ界の新番組シリーズは、秋スタートして春まで新作を放送、春から秋までのサマーシリーズは再放送というパターンで編成されています。新作を放送中に番組の評判や視聴率のり

サーチを行い、次のシーズン（翌年度）番組を継続するかどうかを決定します。アメリカで制作される海外ドラマで、はつきりした最終回がないのはこのためです。

さて「逃亡者」の場合、過去に第一シーズン（モノクロ全30話）と最終シーズン（第四シーズン、カラー全30話）計60話はN局のBS2で放送されました。しかし、第二シーズンと第三シーズンを抜いた放送だったのです。残る60話をどうやって観ようかと考えている時、ケーブルテレビのチャンネルで、偶然にも去年（09年）秋から全エピソードが放送されていたのです。幸いなことに再放送も含めて全120話すべてを視聴することができました。中学・高校時代にも観ていた番組なのに記憶に残る思い出のエピソードはなく、すべてが初めて観るエピソードのようで新鮮でした。主人公のリチャード・キンブルが家族に寄せる想いや、医師として他人ヒトに尽くす姿、真犯人の片腕の男を捜す執念、ジェラード警部との友情など、第一シーズン、第四シーズンにはないエピソードがたくさん描かれていました。

このテレビ映画「逃亡者」は、アンドリュウ・デビス監督、ハリソン・フォード主演で93年映画化されましたが、ジェラード警部役のトミー・リー・ジョーンズ

がアカデミー賞の助演男優賞を獲得しました。

テレビ版では、毎回、矢島正明のナレーション（事件から現在までのいきさつの説明）が放送され、ぼくは、そのナレーションをそらで言えるくらい覚え、ものまねをするほど好きでした。それがアナウンサーを目指すきっかけにもなったのです。

（続）

（文中敬称略）

伸

平成22年9月